



看取りの文化を構想する

□オンライン開催

死生学研究所ホームページから
お申込みください

□お申込み締め切り

2023年9月27日(水) 17時

□お問合せ 死生学研究所 shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

□先着 100名様

□参加費 無料

第5回連続講座

松繁卓哉

国立保健医療科学院
(まつしげたくや) 上席主任研究官

9月30日(土)

16:20-17:50

看取りを支えるコミュニティの課題

内容紹介：

「看取り」という概念を、仮に「他者の人生最期の時間に寄り添うこと」と定義した時、その担い手は誰なのでしょう。多くの人がイメージするのは、最期の時を迎える人を取り囲む家族の姿かもしれません。しかしながら近年、家族の形態が変容し、独居高齢者世帯が増加する中、看取りの担い手も変化しつつあります。身近な人による看取りが出来ない場合、地域社会がその担い手となるのでしょうか？

本報告では、来るべき多死社会において看取りの担い手としてのコミュニティの可能性、立ちはだかる課題、その対策等について、皆様と一緒に考えていきたいと思います。

■プロフィール

専門は医療社会学です。研究テーマは、患者と医療者のコミュニケーション、患者の視点、患者の日常生活の経験、患者・住民による保健医療への参画、今後の看取りの体制、地域における難病相談支援の体制などです。医療の持続可能性や質の向上を考えた時に、いろいろな面で住民や患者による参画が期待されていますが、具体的にどのような方法で実現していけるのか、という点に関心があります。

■主要業績

主な著書に『「患者中心の医療」という言説—患者の「知」の社会学』立教大学出版会 2010年、『現代日本の「看取り文化」を構想する』東京大学出版会 2022年、『健康と社会(新訂)』放送大学教育振興会 2023年など。

<予告>

◇(公財)国際宗教研究所共催 シンポジウム
10月28日(土) 14:40~17:50

◇第6回<公開>連続講座
11月11日(土) 16:20~17:50
山田千香子(聖徳大学心理・福祉学部教授)

東洋英和女学院大学死生学研究所編

死生学年報2023

「死生学の拡がり」

◆書店にて定価2,500円+税でご注文、ご購入いただけます
◆お問い合わせ 東洋英和女学院大学 死生学研究所
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

お申込みはこちら→

